

タチガレン粉剤

農林水産省登録 第10760号
ヒドロキシノキサゾール…4.0%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	根の生育促進、移植時の発根及び 活着促進、ムレ苗防止 苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌)	育苗箱(30×60×3cm、使用 土壌約5ℓ) 1箱当り4～8g	は種前	1回	育苗箱土壌に 均一に混和する。	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、移植 前の土壌灌注は2回以 内、本田では1回以内)
稲 (畑苗代)	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進 苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌)	育苗箱(30×60×3cm、使用 土壌約5ℓ) 1箱当り3～6g				
稲 (折衷苗代)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌)	50～100g/m ²				
稲 (湛水直播)	根の生育促進による苗立の安定	乾籾重量の3%				

タチガレン液剤

農林水産省登録 第10331号
ヒドロキシノキサゾール…30.0%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌) 根の生育促進、移植時の発根及び 活着促進、ムレ苗防止	500～ 1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時 及び 発芽後	2回以内	土壌灌注	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、移植 前の土壌灌注は2回以 内、本田では1回以内)
	こま葉枯病	500倍		は種時	1回		
	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌) 根の生育促進、移植時の発根及び 活着促進、ムレ苗防止	1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ	は種時 及び 発芽後	2回以内		
こま葉枯病			は種時	1回			
稲 (折衷苗代)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌)	500倍	1ℓ/m ²	は種直後 及び 発芽後	2回以内		
稲 (畑苗代)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌)	1000倍	3ℓ/m ²	は種直後	1回		
	根の生育促進 移植時の発根及び活着促進						
稲	登熟歩合向上	500倍	150ℓ/10a	出穂直前 ～出穂期	1回	散布	4回以内(種もみへの 処理は1回以内、移植 前の土壌混和は1回以 内、移植前の土壌灌注 は2回以内、本田では 1回以内)
		原液	0.3ℓ/10a			空中散布	
		3倍	0.8ℓ/10a			無人ヘリコプター による散布	

タチガレイースM 粉剤

農林水産省登録 第22773号
ヒドロキシノキサゾール…4.0%
メタラキシルM…0.25%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメタラキシルM を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌) ムレ苗防止、根の生育促進	育苗箱(30×60×3cm、使用 土壌約5ℓ) 1箱当り6～8g	は種前	1回	育苗箱土壌に 均一に混和	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、移植 前の土壌灌注は2回以 内、本田では1回以内)	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、育苗 箱への灌注は1回以内、 本田では2回以内)
稲 (湛水直播)	根の生育促進による苗立の安定	乾籾重量の3%			過酸化カルシウム 剤に添加して種 子に湿粉衣する。	2回以内(種もみへの 処理は1回以内、本田 では1回以内)	3回以内(種もみへの 処理は1回以内、本田 では2回以内)

タチガレイースM 液剤

農林水産省登録 第22774号
ヒドロキシノキサゾール…30.0%
メタラキシルM…2.0%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数	メタラキシル及びメタラキシルM を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌) ムレ苗防止、根の生育促進 移植時の活着促進	500～ 1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時 又は 発芽後	1回	土壌灌注	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、移植 前の土壌灌注は2回以 内、本田では1回以内)	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、育苗 箱への灌注は1回以内、 本田では2回以内)
		1000倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ	は種時				
稲 (湛水直播)	苗腐病(ピシウム菌)	2.5～5 倍	乾燥種籾1kg当り 30mℓ	は種前		鉄コーティング種 子に吹き付け処理	2回以内(種もみへの 処理は1回以内、本田 では1回以内)	3回以内(種もみへの 処理は1回以内、本田 では2回以内)

タチガレファイト 液剤

農林水産省登録 第23677号(農業)
生第101120号(肥料)
殺菌・補調作用成分：
ヒドロキシノキサゾール…16.5%
肥料成分：水溶性りん酸…18.0%
水溶性加里…20.0%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ヒドロキシノキサゾール を含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯病(フザリウム菌・ピシウム菌) 根の生育促進、移植時の発根及び 活着促進、ムレ苗防止	300倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500mℓ	は種時 及び 発芽後	2回以内	土壌灌注	4回以内(移植前の土壌 混和は1回以内、移植 前の土壌灌注は2回以 内、本田では1回以内)
		500倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500～900mℓ				
	600倍	苗立枯病(ピシウム菌) 根の生育促進、移植時の発根及び 活着促進、ムレ苗防止	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り500～1000mℓ				
		苗立枯病(フザリウム菌)	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1000mℓ				

ダコレート水和剤

農林水産省登録 第21818号
ベノミル…20.0% TPN…50.0%
毒性：普通物*

作物名	適用病害名 使用目的	希釈倍数	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベノミルを含む 農薬の総使用回数	TPNを含む 農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病(苗いもち)	400倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り0.5ℓ	は種時	1回	灌注	2回以内(種子への処 理は1回以内、床土へ の混和は1回以内)	2回以内
	苗立枯病(リゾプス菌)	400～600倍		は種時から 緑化期 但し、は種 14日後まで	2回以内			
	苗立枯病(トリコデルマ菌) 苗立枯病(フザリウム菌)	800～1200倍	育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り1ℓ					

※「毒物および劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
○容器・空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。 ○防除日誌を記載しましょう。

*本製品は農業用殺菌剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。
*本印刷物は2017年3月1日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

苗半

なえ・はんさく【苗半作】苗を育てる作業が、その植物を育てる工程の半分を占めるという意味。すなわち、苗を育て上げるまでがとて重要であることを示す言葉。昔から水稲栽培においてよく使われる格言。「一」の精神で、育苗に取り組んだから、今年の米作りは半分成功したようなものだ」





悪条件に負けない強い苗を作る。



育苗期主要病害を防ぐと同時に、

TACHIGAREN®

DACOLATE®

45年以上の信頼と実績

ムレ苗防止効果アップ!

肥料入りで健苗を増強!

苗もちと苗立枯病を同時防除

タチガレン
ヒドロキシイソキサゾール 粉剤/液剤

タチガレースM
ヒドロキシイソキサゾール・メタラキシルM 粉剤/液剤

タチガレファイト
ヒドロキシイソキサゾール複合肥料

ダコレート 水和剤
ベノミル・TPN水和剤



1成分



2成分



1成分



2成分

上手に組み合わせ、
水稲育苗期主要病害を
幅広く抑える!

粉剤 1kg → 育苗箱 125枚分
<育苗箱1箱(土・約5ℓ)あたり8g使用した場合>

液剤 500ml → 育苗箱 500枚分
<500倍液を500ml/箱 灌注した場合>
液剤は育苗箱1枚あたり、原液1ml分が灌注されるように使用するのが上手な使い方です。

水和剤 100g → 育苗箱 80枚分
<400倍液を500ml/箱 灌注した場合>

タチガレン、タチガレース、タチガレファイトは三井化学アグロ(株)の登録商標です。
ダコレートは(株)エス・ディー・エスバイオテックと住友化学(株)の登録商標です。

育苗箱に発生する主な病害

育苗箱で発生する病害は、外見的には似たような症状を示すことから、被害の様子(病徴)だけで見分けるのは困難です。例えば、同じ苗立枯病でも、箱全体に被害の出る場合と、部分的に坪枯れ症状を示す場合があります。地際や根部をよく観察して、病原菌そのものが示す特徴を見付けることが、正しい対処への第一歩です。

タチガレン剤とダコレート水和剤の組合せで、育苗期主要病害を幅広く抑えることができます。さらに、タチガレン剤の健苗育成効果により、移植後、活着が良く、初期生育の良い、丈夫な苗が得られます。

	ピシウム	フザリウム	トリコデルマ	リゾプス	苗いもち	ごま葉枯病	健苗育成
タチガレン剤	○	○				○	○
ダコレート水和剤		○	○	○	○		

タチガレン
粉剤・液剤



タチガレースM
粉剤・液剤



タチガレファイト
液剤



ダコレート
水和剤



苗いもち

□ 紡錘形の病斑

種子
伝染性

苗の基部が暗褐変し、その後下葉に葉いもち同様の長紡錘形ないし菱形で中央部灰白色、周縁褐色の病斑が現れる。また1.5葉期以降、芯葉が急速に萎凋し枯死する場合がある。



ごま葉枯病

□ ごま状の病斑

種子
伝染性

苗の地際から葉鞘全体が褐変し、苗立ちが不揃いになる。葉には黒褐色短線状(ごま状)の病斑が形成される。



苗立枯病 ピシウム属菌

土壌
伝染性

出芽阻害型

□ 出芽後に腐敗

苗が出芽時に低温に遭遇すると発生することが多く、出芽後に腐敗枯死することが多く、出芽後に腐敗枯死する。生き残った苗の地際と根部は褐変し、生育は著しく遅延する。周囲の健全苗が生育するにしたがって、パッチを形成する。(ピシウム属菌/イレギュラーレなど)



急性萎凋型(ムレ苗)

□ 立枯型と生育遅延型がある
□ 褐変は比較的淡色



萎凋・立枯型

育苗後期に苗が低温に遭遇した数日後に急激に萎凋し枯死する「萎凋・立枯型」と、枯死には至らず、生育が停滞する「生育遅延型」とがある。発病した苗の地際・根部の褐変は淡色。(ピシウム属菌/グラミニコーラ・アレノマネス)



生育遅延型

ばか苗病

□ 黄化徒長

種子
伝染性

発病苗は育苗中・後期に黄化徒長するが、重症苗は発芽後間もなく枯死する。通常、箱あたり数本発生するが、激しく発病すると箱全体が徒長することもある。発病苗を本田に移植してもほとんどが枯死、出穂しても不稔になる。



苗立枯病 フザリウム属菌

土壌
伝染性

□ 白～淡紅色のカビ

地上部については他属菌の苗立枯病と同様、出芽後の苗の地際・根部分が褐変腐敗あるいは伸びが悪く、黄化、萎凋症状がみられ枯死する。もみの周囲に白～淡紅色のカビが見られる。



苗立枯病 トリコデルマ属菌

土壌
伝染性

□ 白～青緑のカビ

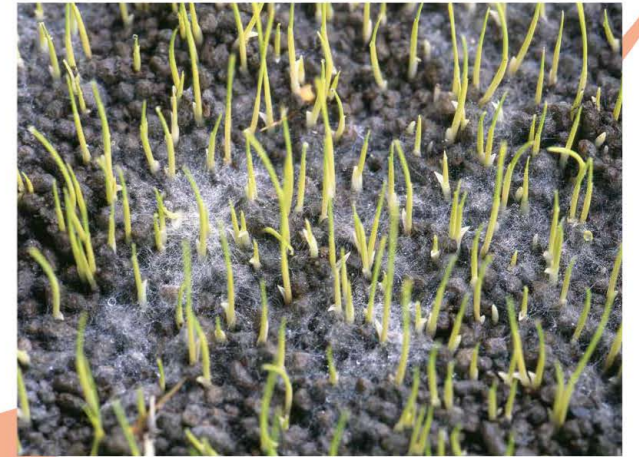
地上部については、他属菌の苗立枯病と同様。もみの周囲に白～青緑色のカビが見られる。



苗立枯病 リゾプス属菌

土壌
伝染性

□ 床土表面に白い菌糸 □ 根先端が丸く膨らむ



高温、多湿、密播の箱育苗で発生する。白い菌糸が床土表面を急速に繁殖して、覆うほどになる。もみの発芽は悪く、苗は不揃いになる。根の先端は膨らんで伸びが悪い。地表に菌糸が見られなくても、もみの周囲に密生することもある。



もみ枯細菌病

□ 腐敗臭 □ 葉鞘褐変 □ 芯葉が抜ける

保菌もみを播種すると、出芽後間もない苗が黄白色ないし褐色に腐敗、腐敗臭がする。後期に発病すると芯葉の基部が腐敗してスッと抜け易くなる。育苗箱内でパッチ状に発生する。

種子
伝染性



苗立枯細菌病

□ 腐敗臭はなく、芯葉は抜けない
□ 葉先端ロール状、乾燥枯死

種子
伝染性

初期症状は、もみ枯細菌病と症状が似ているが、腐敗臭はなく芯葉は抜け易くはならない。葉先端が萎れてロール状に巻き、赤茶けた状態で枯死する。パッチ状に発生して、初期の萎凋症状はムレ苗と間違われやすい。

